

Ⅲ 本年度の主な事務事業

1 基幹浄水場連絡管整備事業

- (1) 事業概要
- (2) 事業費及び財源（基幹浄水場連絡管整備事業）
- (3) 令和2年度事業内訳

2 老朽管更新事業

- (1) 事業概要
- (2) 事業費及び財源
- (3) 令和2年度事業内訳

3 令和元年東日本台風による被害と復旧の経過

- (1) 概要
- (2) 主な被害状況
- (3) 災害復旧の進捗状況
- (4) 災害復旧に係る事業費と財源

4 新型コロナウイルス感染症対策関係

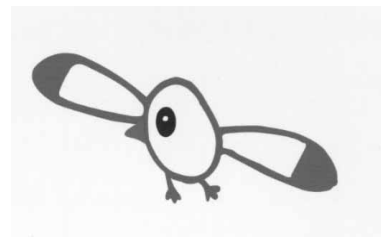
- (1) 概要
- (2) 新型コロナウイルス感染症対策に係る事業費と財源

市の鳥 かもめ（平成8年10月1日制定）



市制施行30周年を記念して制定されました。かもめは身近な海鳥として、ひろく一般に知られています。本市には約60キロメートルにわたる美しい海岸線があり、市のイメージに最もふさわしい鳥です。

イメージキャラクター ミュウ



Ⅲ 本年度の主な事務事業

1 基幹浄水場連絡管整備事業

(1) 事業概要

本事業は、目標年度を令和10年度として平成15年度から実施している事業であるが、平成29年度からスタートした「新・いわき市水道事業経営プラン」において、今後の基幹水道施設の再構築を具現化する中心的な事業として改めて位置付けた事業である。

平常時の効率的な配水運用を可能にするとともに、震災時や水質事故時等の非常時でも安定給水を確保することを目的として、既設水道施設の更新を兼ねながら基幹浄水場間で相互融通できる水系幹線等の整備を行う事業である。

平成30年度までに平第2配水池、平ポンプ場、平・上野原水系幹線を整備したところであり、一部の既設水道施設を活用し暫定的に供用も開始している。

令和2年度は4億2,619万3千円の事業費で、鹿島・常磐水系幹線等の新設工事の整備を実施し、令和元年度からの繰越工事である平・鹿島水系幹線新設工事（小名浜平第3工区）外1件が完了したことで、「平・鹿島水系幹線」（平配水池から中央台ポンプ場まで）が完成した。

(2) 事業費及び財源

ア 事業費

(単位：千円)

区 分	平成15～令和元年度	令和2年度	合計
配水施設	10,312,571	389,256	10,701,827
平第2配水池新設	1,358,240	0	1,358,240
平ポンプ場新設	1,224,655	0	1,224,655
水系幹線新設	7,729,676	389,256	8,118,932
消火栓施設	2,475	1,282	3,757
用地費	89,368	0	89,368
測量調査費	524,373	0	524,373
補償費	53,244	0	53,244
負担金	964	0	964
事務費	591,324	35,655	626,979
合 計	11,574,319	426,193	12,000,512

※ 本事業費は後期事業の繰越分（平成20年度からの繰越額 工事請負費104,281千円、事務費130千円）は含まない。

イ 財源

(単位：千円)

区 分	平成15～令和元年度	令和2年度	合計
企業債	5,673,500	118,200	5,791,700
国庫補助金	0	0	0
自己資金	3,323,986	105,212	3,429,198
工事負担金	0	0	0
他会計負担金	2,475	1,282	3,757
他会計出資金	2,574,358	201,499	2,775,857
合 計	11,574,319	426,193	12,000,512

(3) 令和2年度事業内訳

(単位：千円)

区 分	事業費	施 行 内 容
1 配水施設 水系幹線新設	389,256	配水施設 鹿島・常磐水系幹線新設工事（第5工区） φ 700mm L = 424m 平・鹿島水系幹線新設工事（小名浜平第3工区） φ 600mm L = 941m 電動弁 N = 1基、減圧弁 N = 1基、 流量計 N = 1基、計装盤 N = 1面 平・鹿島水系幹線新設工事（南白土接続） φ 300mm L = 99m 電動弁 N = 1基、減圧弁 N = 1基、 流量計 N = 1基
2 消火栓施設	1,282	2基
3 用地費	0	
4 測量調査費	0	
5 補償費	0	
6 負担金	0	
7 事務費	35,655	
合 計	426,193	

(配水課)

2 老朽管更新事業

事業概要

ア 老朽管更新事業

本事業は、平成29年度からスタートした「新・いわき市水道事業経営プラン」において最重要事業として位置づけた事業であり、実使用年数（実際に使用可能な年数）を超過する水道管を耐震管で更新することで災害に強くかつ健全性を維持することを目的とした事業である。

令和2年度は38億 1,584万 7千円の事業費で、平上高久配水管改良工事外76件を実施した。

イ 重要給水施設配水管整備事業

本事業は、老朽管更新事業を構成する一事業であるが、東日本大震災の経験を踏まえ、耐震化された配水池から災害時に優先的に給水すべき救急病院等の重要給水施設までの配水管を耐震化することで、災害時においても確実な給水を確保することを目的とした事業である。

令和2年度は、4億 1,210万 8千円の事業費で、好間町下好間配水管整備工事外6件を実施した。

なお、本事業は生活基盤施設耐震化等交付金の対象事業である。

事業費及び財源

ア 事業費

区 分	令和2年度
更新延長（m）	30,818
事業費（千円）	3,815,847

イ 財源（単位：千円）

区 分	令和2年度
企業債	1,533,800
国庫補助金	50,229
自己資金	1,694,287
他会計負担金	65,567
他会計出資金	471,964
計	3,815,847

令和2年度事業内訳

（単位：千円）

区 分	事業費	施 行 内 容
1 配水施設 老朽管更新事業	3,517,595 (412,108)	配水施設 平上高久配水管改良工事 外69件 50mm～ 500mm L = 30,818m (好間町下好間配水管整備工事 外6件) (200mm～ 500mm L = 1,429m)
2 消火栓施設	65,567	72基
3 用地費	0	
4 測量調査費	84,590 (0)	配水施設 平北白土配水管改良測量設計委託 外6件
5 補償費	0	
6 負担金	2,639	橋梁添架負担金
7 事務費	145,456	
合 計	3,815,847	

(注)：()内は重要給水施設配水管整備事業を内数で示す。

(配水課)

3 令和元年東日本台風による被害と復旧の経過

概要

令和元年10月12日から13日にかけて本市を襲った令和元年東日本台風（台風第19号、以下「台風」という）により夏井川など市内各地の河川堤防で氾濫が発生し、平地区（平窪、赤井）、好間地区、小川地区などで広範囲にわたり床上浸水や土砂災害等に伴う住家被害が多数発生したほか、基幹浄水場である平浄水場が浸水被害を受けて運転停止となったことから、市内の約3分の1にあたる約4万5,400戸に広域的な断水が発生した。また、勿来地区では、鮫川の氾濫により法田ポンプ場が浸水被害を受けて運転停止となったが、他の浄水場からの融通により、配水区域への給水を継続しつつ、復旧作業にあたった結果、14日には運転を再開した。

平浄水場については、全国の水道事業者をはじめ、自治体、自衛隊、民間企業等の協力を得ながら、組織を挙げて応急給水活動を実施するとともに、応急復旧作業に取り組んだ結果、21日に試験浄水を開始し、浄水処理と運転制御に問題がないことを確認できたため、22日から通水作業に入り段階的に通水エリアを拡大した。25日の豪雨により大久町大久の一部地区で再び断水が発生したものの、27日午後3時をもって通水作業を完了し、全ての断水を解消することができた。

主な被害状況

ア 取水・浄水施設

- ・ 平浄水場：台風に伴う夏井川氾濫により被災
被害状況：電気設備、ポンプ室、ろ過池及び沈殿池の付帯設備などが浸水
- ・ 下平窪取水場：台風に伴う夏井川氾濫により被災
被害状況：屋内受変電設備、屋内電気計装設備、汚泥引抜ポンプなどが浸水
- ・ 法田ポンプ場：台風に伴う鮫川氾濫により被災
被害状況：屋外受電設備、電気室内電気盤、送水ポンプ電動弁などが浸水

イ 配水施設

- ・ 平窪第2ポンプ場：台風に伴う夏井川氾濫により被災
被害状況：電気計装設備、ポンプ電動機、薬品注入設備などが浸水
- ・ 草木台配水池：台風に伴う豪雨により被災
被害状況：進入路法面崩れ

ウ 耐震性貯水槽建屋

- ・ 好間第一小学校耐震性貯水槽：台風に伴う好間川氾濫により浸水
- ・ 馬場児童公園耐震性貯水槽：台風に伴う新川氾濫により浸水

エ 管路

- ・ 配水管：台風に伴う河川氾濫により被災
被害状況：配水管洗掘2か所及び添架管折れ1か所
- ・ 給水管：台風に伴う河川氾濫及び10月25日の豪雨により被災
被害状況：河川氾濫により漏水3件、豪雨による漏水1件

災害復旧の進捗状況

取水・浄水施設（平浄水場、下平窪取水場、法田ポンプ場）及び配水施設（平窪第2ポンプ場、草木台配水池）については、令和2年度までに36件の応急復旧工事や緊急業務委託を発注し、全ての工事等を完了した。

管路については、落橋した弥宜内橋の復旧工事に合わせ配水管を添架する工事となるため、応急的な仮設管の工事及び配水管添架に係る実施設計委託を令和2年度までに実施し、本復旧工事については弥宜内橋復旧工事の進捗に合わせ今後施工することとなる。

なお、耐震性貯水槽建屋については、浸水したものの復旧工事を要する被害は生じなかったことから、配水には影響がなかった。

災害復旧に係る事業費と財源

台風の被害に対応するため、令和2年度は、資本的支出で829,663千円の事業費を支出して災害に係る工事などを実施した。

また、財源については、災害に係る工事などに国庫補助金等が充てられることが国から示されたが、災害査定が令和2年度にずれ込んだ結果、令和2年度の収入が530,204千円となった。

【上水道・簡易水道合計】

(単位：千円)

		令和元年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 当初予算	合計	備考
総事業費		1,139,448	829,663	27,750	1,996,861	
(財源)国庫補助金等		0	530,204	6,387	536,591	
(財源)自己資金		1,139,448	299,459	21,363	1,460,270	
総 事 業 費 の 内 訳	(収益的収入)	0	301,111	0	301,111	
	特別利益	0	301,111	0	301,111	
	災害復旧に係る 国庫補助金	0	261,924	0	261,924	災害査定が令和2年度にずれ込んだもの
	応急給水に係る 繰入金	0	39,187	0	39,187	災害査定が令和2年度にずれ込んだもの
	(収益的支出)	1,104,867	0	0	1,104,867	
	人件費	36,571	0	0	36,571	
	災害給水・災害 復旧・災害対応	36,571	0	0	36,571	
	特別損失 (災害による損失)	1,068,296	0	0	1,068,296	
	災害応急復旧費	1,043,600	0	0	1,043,600	
	災害応急給水費	24,696	0	0	24,696	
	(資本的収入)	0	229,093	6,387	235,480	
	国庫補助金	0	229,093	6,387	235,480	
	災害復旧に係る 補助金	0	229,093	6,387	235,480	弥宜内橋関連
	(資本的支出)	34,581	829,663	27,750	891,994	
	災害復旧事業費	34,581	829,663	27,750	891,994	
委託料	0	6,710	0	6,710	弥宜内橋関連	
工事請負費	34,581	822,953	27,500	885,034	弥宜内橋関連	
負担金	0	0	250	250	弥宜内橋関連	

(経営戦略課)

Ⅲ 本
事
務
事
業
の
主
な

4 新型コロナウイルス感染症対策関係

概要

令和2年4月16日に、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の対象区域が全都道府県に拡大されるとともに、市内においても感染者が確認されたことなどを受け、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、様々な取組を実施してきた。

具体的には、人と人との接触による感染リスクを軽減させる観点から、浄水場敷地内や各課等への立入りを制限することに加え、水道配水管図の交付等の手続きにおける郵送による取扱いの導入や入札方式について入札当日に来局の必要がない「郵便による入札」への変更を行った。また、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、離職や収入の大幅な減少等により生活が困窮する方を支援するため、水道料金・下水道使用料等の支払いが困難な方に対し、支払い猶予について相談に応じた。

さらに、職員の勤務体制については、「新型インフルエンザ等に係るいわき市水道事業継続計画（BCP）」に基づき、優先して実施していく業務を見定めた上で、業務に支障がない範囲において接触機会を減らすため、分散勤務や在宅勤務等により、職場単位において職員全員が感染者または濃厚接触者となることを防止する体制を構築し、5月14日の緊急事態宣言の終了後においても、再度の感染拡大に備え、分散勤務等を継続して実施した。

これらの取組により、年末年始に市内での新規感染者が急増するなど、依然として予断を許さない状況下においても、感染症対策の徹底を図り、職員の感染防止に努めながら、市民生活に不可欠な水道水の安定供給を維持してきた。

○ 職員の勤務体制

分散勤務

ア 水道局本庁舎

各課において、本庁舎、東分庁舎（東側倉庫を改修）及び仮設庁舎（公用車駐車場内に設置）に分散して勤務した。なお、浄水課浄水施設係については、北部浄水場管理室及び南部浄水場管理室に分散して勤務した。

イ 南部工事事務所

事務所及び仮設庁舎（事務所敷地内に設置）に分散して勤務した。

在宅勤務

業務で使用しているLGWAN接続系端末を用いて、在宅勤務を行った。

時差出勤

7時30分から19時15分までの範囲内で時差出勤を行い、通勤途上の感染防止と弾力的な勤務体制の確保を図った。

週休日等の活用

週休日や休日等に勤務を割り振り、平日を振替日または代休日とすることで、一日あたりの出勤者を減らした。

新型コロナウイルス感染症対策に係る事業費と財源

新型コロナウイルス感染症対策として、令和2年度は、収益的支出で30,875千円、資本的支出で42,642千円、合計で73,517千円の事業費を支出した。

【上水道・簡易水道合計】

(単位：千円)

		令和2年度 決算	令和3年度 当初予算	合計	備 考		
総事業費		73,517	12,213	85,730			
(財源)国庫補助金等		73,517	0	73,517			
(財源)自己資金		0	12,213	12,213			
総 業 費 の 内 収 支	収益的 収入	収益的収入	30,875	0	30,875		
		特別利益	30,875	0	30,875		
		その他特別利益	30,875	0	30,875	新型コロナウイルス対応地方創生臨時交付金	
	収益的 支出	収益的支出	30,875	12,213	43,088		
		特別損失	30,875	12,213	43,088		
		その他特別損失	30,875	12,213	43,088		
	資本的 収入 支	資本的 収入	資本的収入	42,642	0	42,642	
			他会計出資金	42,642	0	42,642	
			他会計出資金	42,642	0	42,642	新型コロナウイルス対応地方創生臨時交付金
		資本的 支出	資本的支出	42,642	0	42,642	
			建設改良費	42,642	0	42,642	
			施設整備事業費	13,739	0	13,739	
	施設更新事業費	14,399	0	14,399			
	固定資産購入費	14,504	0	14,504			

(経営戦略課)